

NPhA

隔月刊誌
[エヌファ]

NPhA



Exclusive Interview

特別対談

地域連携薬局を
周辺薬局は活用し地域への
手厚い薬局サービス実現を
電子処方箋は地域の中核病院への普及急ぐ



藤井江美氏

城克文氏

藤井江美氏

一般社団法人日本保険薬局協会 副会長

城克文氏

厚生労働省 医薬局長

Visiting

〔訪問シリーズ〕在宅特化型薬局

従業員を守るため外来・在宅調剤の
分離を決断

ノムラ薬局 在宅調剤センター府中店（東京都府中市）

Round Table Discussion

〔座談会〕電子処方箋で変わる薬局の未来

一定の周知が進んだなかで
ターゲットに応じた
周知の工夫が必要

厚生労働省医薬局
総務課長
重元 博道 氏

株式会社メディカルシステムネットワーク
取締役常務執行役員 経営戦略本部長
多湖 健太郎 氏

クオールホールディングス株式会社
DX・AI 推進部担当部長
中村 貴之 氏



多湖 健太郎氏

重元 博道氏

中村 貴之氏



株式会社サエラファーマシーズ
サエラ薬局 浜田山店 (東京都杉並区)

管理栄養士 **鈴木 美帆**

サエラ薬局は、全国 90 店舗を
関東・東海・関西・北陸・中国エリアに展開しています。
2020 年に 7 人からスタートした弊社の管理栄養士の活動は
今年で 6 年目を迎え、46 人が 29 店舗に在籍し、
活動の幅も広がってきました。
本稿では、昨年初めて学会発表に挑戦したことのほか、
これまでの管理栄養士チームの活動について紹介します。

薬剤師と連携した質の高い 栄養相談を積極実施

社内の研究成果発表会での表彰を契機に 学会発表に初挑戦

日本薬局学会学術総会で 初めて学会発表

当社では毎年夏に、各店舗での取り組みを発表する社内の研究成果発表会があります。口頭発表とポスター発表があり、昨年はこれまでの浜田山店の管理栄養士活動をポスター発表し、表彰されました。

社内での発表がきっかけとなり「学会発表をしてみないか？」と弊社の学術部門から声をかけられ、昨年 11 月に横浜で行われた第 18 回日本薬局学会学術総会でポスター発表を行いました。

初めての学会発表ということもあり、右も左も分からなかったため、社内のサポートを受けながら発表に向けて準備をしました。

通常の業務と並行して学会発表の準備を進めるのは大変でしたが、今後も学会発表などを通じて、自分た



昨年、横浜で開催された日本薬局学会学術総会でポスター発表した筆者(右)

ちの活動を広めていきたいと思います。また、少し勇気は必要ですが、貴重な経験になることは間違いないので、一緒に活動している管理栄養士チームの仲間や後輩にも、学会発表などを通じて視野を広げてほしいと願っています。

何から始めて良いか 分からなかった活動当初

最初から、店舗での管理栄養士活動が順調にスタートしたわけではありませんでした。私が浜田山店に配属された 2021 年は、まだ社内に管

理栄養士の先輩が 10 人ほどしかおらず、管理栄養士活動もスタートしたばかりであったため、店舗でどのような活動を進めたら良いか先輩スタッフの方々も分からず、困惑していたと思います。

そこで、管理栄養士として、どのように栄養相談ができるのかを他店舗の管理栄養士の先輩方の体験談を参考にしながら、店舗の先輩スタッフ及び患者様に対して地道に伝え、模索していきました。そして、店舗の先輩スタッフの協力も得て、予約制の栄養相談をスタートしました。予約制にすることで、外来対応で混雑している時間帯を避けてじっくり患者様とお話しすることができました。何より、経験の浅い私でも、準備の時間を確保できたのが良かったです。

今でも、初めて栄養相談をした患者様のことはよく覚えています。何



地域住民の健康をサポートできる存在に！

薬剤師と連携しながら患者様と関わることで、薬局が薬物治療の側面で役立つ場所から、地域の皆様の健康をサポートできる、より身近な拠点になれるのではないかと感じています。

また、サエラ薬局では地域と連携した健康教室の実施や、管理栄養士が在籍していないエリアでも、オンラインツールを活用した講座を実施しました。他にも、ここ3年ほどは毎年7月に大学と連携し、2日間で600人以上の方が来場される健康フェアを開催しています。浜田山店を利用される患者様以外ともお会いできる、このような活動を通じて、さらに地域の皆様の健康をサポートしていきたいと思っています。

そのためには、私達のスキルアップや人員体制の充実など、多くの課題があります。これらを一つずつ解決しながら、気軽に相談できる薬局を目指して、これからも管理栄養士チームの活動を盛り上げていきたいと思っています。

次号は、クラフト株式会社（東京都）の田中沙苗氏が執筆します。

から準備すればよいのか分からず、専門書や教科書をひたすら熟読し、緊張しながら当日を迎えました。相談の途中で「家族性高コレステロール血症」であると分かり、初回から難しい症例に向き合うことになり、思わず頭が真っ白になりました。相談を終えた時、「これで良かったのか…」という思いもよぎりましたが、患者様から「ありがとうございました。今日、言われたことを頑張ってみます」と言っていただけで、非常に嬉しく感じました。

初めての栄養相談を終えて、管理栄養士としての知識はもちろんですが、患者様の表情や声色などからも心情を捉えられるような経験が、もっと必要だと痛感しました。そこからは先輩管理栄養士にアドバイスをもらいながら、反省と改善を繰り返しました。当時と比べると、発展途上ではありますが、レベルアップした栄養相談ができるようになったと思います。

商品棚に「管理栄養士おすすめコーナー」設置

翌年、管理栄養士の後輩が配属され2人体制になったことをきっかけに、店舗での健康教室を開催しました。地域の皆様へ食事・栄養に関する情報発信を行う非常に良い機会となりましたが、栄養相談件数はそれほど増えませんでした。「もっと地域の皆様に薬局で栄養相談ができることを知ってほしい」と思い、三つの取り組みを店舗スタッフと話し合い、スタートしました。

まず一つ目は、栄養相談事前問診票を作成し、口頭では答えづらい身長や体重、相談内容などを記入でき

るようにしました。患者様のプライバシーを確保しつつ、事前情報があることで、より質の高い栄養相談に繋がったと思います。

二つ目は、薬剤情報提供書の裏面に栄養相談の案内や管理栄養士チームで作成しているレシピや栄養ニュースを印刷し、広報活動に努めました。その結果、この案内を見て問い合わせや栄養相談に繋がったケースもありました。

三つ目は、商品棚に「管理栄養士おすすめコーナー」を設置しました。浜田山店を利用される患者様の傾向から、低糖質をテーマに商品の選定を行い、管理栄養士の存在を周知するだけでなく、関心を持ちやすい商品を置くことで、食事や栄養に興味をもっていただけるようにしました。

薬剤師と連携した栄養相談を積極的に実施

三つの取り組みに加えて、薬局からできる薬剤師と連携した栄養相談の取り組みも進めました。服薬指導時に栄養相談が必要だと思われる患者様へ、薬剤師から積極的に栄養相談の案内をしてもらいました。栄養相談の実施歴は薬歴の申し送りに記載し、継続的にお声がけができるようにしました。相談実施後は薬剤師へ栄養相談の内容を共有し、一貫して患者様をサポートできるようにしました。

このような薬剤師との連携が増えたことで、食生活と薬物療法の両面から患者様をフォローアップすることが可能になりました。さらに職種間のコミュニケーションが増えたことで、お互いの知識向上にもつながりました。